

日本地球惑星科学連合大会における保育室設置について

The childcare support system in Japan Geoscience Union Meeting

森尻 理恵 [1]
Rie Morijiri[1]

[1] 産総研
[1] GSJ,AIST

地球惑星科学連合 (JPGU) では、その前身である地球惑星科学関連学会合同大会で 1998 年から保育室が設置されてきた。その経緯と現状については既に 2005 年の連合大会で木戸 (2005) によって詳しく報告が行われたほか、ホームページ (<http://ofgs.ori.u-tokyo.ac.jp/~child/index.html>) でも情報を公開している。今回の一般公開プログラム「地球惑星科学の明日を考える - 男女共同参画の視点から -」においても、改めて紹介することになった。今回は、新たに学会で保育室を立ち上げようという方にいくらかでも参考になるような事柄を中心に紹介したい。正式名称を決めていないので仮に保育室グループとするが、世代、男女を問わず、しかも、子供がいる / いないに関わらずメンバーが集まり議論が行われていることを強調しておきたい。保育室立ち上げに当たって、特に気をつけたのは、学会における保育支援は女性だけの問題ではないということのを要望書に明示することだった。10 年前はまだ男女共同参画という意識が会員の多くに定着していなかったもので、ごく一部の会員の個人的な問題として片付けられる危険があったからである。組織委員会の判断で、特に安全対策に重点を置き、天文学会に做ったボランティアグループで運営をすることで、1998 年の大会期間中の会場内に設置することが実現した。このときは、保育料について学会の補助がまだ無かったので、さまざまな伝を頼ってカンパも行った (ご協力ありがとうございました)。地球科学関連のみならず、工業技術院 (現・産業技術総合研究所) 女性研究者の会でもカンパを行い、これがきっかけで女性研究者の会の会員が日本化学会、物理学会等で保育室設置に関わるようになった例もある。また同時に、保育室懇談会を学会期間中の昼休みを利用して開催した。懇談会は、以後毎年開催され、情報交換の場となっている。メーリングリストも設置した (現在の登録者 58 名)。さらに、組織委員会そのものもボランティアで運営されている事情から、保育室のボランティアグループから 2 年交代で 2 人ずつ幹事を選出し、ベビーシッターの手配や料金の徴収、部屋の準備等、運営の中心となった。以下大きな変化としては、2000 年度には、学会からの利用料補助が始まった。2001 年からは幹事が運営機構に加わった。2003 年からは大会会場が代々木の青少年センターから幕張メッセに移ったこともあり、会場内の一室を利用する形式から、会場近くの民間保育ルームを希望者に紹介する方式が変わった。利用申し込みは、保育ルームへ利用者が直接行く。所定の料金を保育ルームへ支払い、利用後、保育室幹事へ利用明細表とともに補助金申請書を提出すると、子供 1 人につき 1 時間あたり利用料が 300 円となるよう、正規料金との差額分を事務局より後日返金するというシステムになっている。現在の保育室幹事も基本的に 2 名ずつ 2 年交代で、組織委員会で保育室担当となり、保育室利用のお知らせ、補助金の申請ならびに懇談会の設定に当たっている。

参考: 利用した子供の延べ人数と組織委員会からの補助金総額等

年度、子供の延べ人数 (午前・午後・夜間合計)、形態、利用料 (子供 1 人 1 時間あたり)、学会からの補助金

1998、11、会場内保育室、1000 円、なし (カンパ)
1999、16、会場内保育室、1000 円、なし (カンパ)
2000、24、会場内保育室、700 円、49,189 円
2001、26、会場内保育室、700 円、81,687 円
2002、28、会場内保育室、700 円、133,526 円
2003、14、民間保育ルーム、300 円、89,618 円
2004、24、民間保育ルーム、300 円、97,592 円
2005、26、民間保育ルーム、300 円、103,847 円
2006、26、民間保育ルーム、300 円、102,000 円